

五行歌会

ひ

め



ぼ

通

た

信

る

第33号

編集・発行

ひめぼたる五行歌会

ひめぼたる五行歌会についての問い合わせは、下記までお願い致します。

代表・事務局=果林子(山口)

TEL&FAX

0195-22-4880

五行歌とは？

日々の暮らしのひとコマや、感じたこと、考えていることなどを、五行で表現する文芸です。

約束事は、普段の言葉づかいで、自分のおもいを五行で表現する。一行は一息で読める長さにする。この二つだけです。

五行歌アルバム

#3

山田憲路

11月うた会 一席浪岡末山 二席にじーらん、山田

一席 二戸 浪岡末山

子どもの遊び場は
家の土間か街道
男の遊びはめんこかビー玉
女の子がいれば
ふるさともとめて花いちもんめ

二席 二戸 じーらん

小2の男の子
「俺さあ、声変わりしたんだよ」
残念！
それはただの風邪だよ
お大事にね

二席 二戸 山田憲路

猫車に白菜を積み
腰の曲がつた
おばあさんが
坂の砂利道に行く
そんな秋の夕暮れ

三席 二戸 果林子

頭をへこり
背丈が伸びた
近所の子らが
自転車で駆けぬける
小春日和

軽米 水無月子

映画終わって
明かりがついたら
小指に何やらももぞもぞ...と
えつ、カメムシと
赤い糸で結ばれてた？

北海道 園蝸

心臓発作？それとも？
あつという間の昇天
チャコという姉御猫
21年目の静かな旅立ち
見習いたい その最期

二戸 ルナ

声からも姿からも
大地の温もりをおもわせる人
高い秋空から
「応援してまゝす」
の声届く

山田憲路 うた読み

2024年11月23日(土)

一席の浪岡末山さんのうた。
今は無き土間や街道に、子どもたちの声が響き渡っていた時代があった。懐かしき、思い出のふるさともとめて、花いちもんめ。

二席のじーらんさんのうた。
大好きな兄への憧れは、偽りの変声期も呼び寄せる。兄弟仲良きことは、美しきかな。

同じく二席のじぶんのうた。
日課の畑仕事を終え、収穫し

た白菜の冬支度。土を見つめ続けた小さな背中に、秋の夕暮れが訪れる。

三席の果林子さんのうた。
すれ違いで垣間見た、近所の子らの成長の証。背が伸びた彼らは、自転車にまたがって、小春日和を行く。

水無月子さんのうた。誰もが驚く、種を超えた運命の赤い糸。どんな劇場にも、ロマンスはありあまる。

園蝸さんのうた。愛猫との21年目の日々を訪れた、天使からのお迎え。静かに昇天していく姿は、見習いたくなるほど神々しい。

ルナさんのうた。人生の楽園から、「応援してまゝす」と響く、温もりのある声。遠くへ旅立つても、その声はいつまでも、誰かの胸を奮い立たせる。



ほたるの伝言板

満開の梅を背に
背伸びをする
土筆の坊や
春の主役は
譲らない



今年度も、カシオペアFM(77.9MHz)「かだれ・ば!」では、ひめぼたるのミニコーナー放送中です。番組は、インターネットで聴くことも出来ます。

■放送日 毎週月曜日
午後6時～午後6時30分
土曜日(再放送)
午前8時30分～9時

※ひめぼたる五行歌会では、新たな会員を募集しています。ご興味があれば、見学だけでも大歓迎です。

■活動日 毎月第4土曜日
午後2時～4時
(10～3月、午後1時30分、3時30分)

■場所 二戸中央コミュニティセンター
■会費 月千円

12月うた会 一席じーらん二席 浪岡末山

一席 二戸 じーらん

冬のはじまり
綿雪が
ふんわり ひんやり
頬にとまる
ああ いい湯だ

二席 二戸 浪岡末山

失いたくないもの
夢ひとつ分の軽さで
今の私をふわりと
包みこんでいる
思い

三席 軽米 水無月子

車椅子のまま松明を持ち
一揆の農民の1人として
出演した町民劇
そんな機会を与えてくれたことに
心から感謝!

二戸 ルナ

目標とした事多し
あれはO.K これもO.K
だけど年末の今
総括中
出来なかつた事

北海道 園蛸

人生の出逢い
魅力的な数々の人
目下 地元は皆無
五行歌・同人諸君に
ボクはそれを期待

二戸 山田憲路

お役御免と
凍つく道路に
投げ出されても
最期は潔く
バンザイ

二戸 果林子

蜘蛛の糸に
吊るされて
くるくる回る枯葉
呪いの靴を履き
舞い狂う

山田憲路 うた読み

2024年12月21日(土)

一席のじーらんさんのうた。
頬にとまったふんわり綿雪が、
冬の始まりを告げる。厳しい
寒さに備え、露天風呂に浸かつ
て、芯までからだを温める。

二席の浪岡末山さんのう
た。思い一つが、その人を形作
る。失いたくないものを胸に、
今日一日を生きる。

三席の水無月子さんのう
た。町民ひとりひとりの思いを
集め、約20年ぶりに実現した
町民劇。ひとりの農民として、
車椅子から高々と掲げた火
に、一揆の決意が宿る。

ルナさんのうた。人生のリス
トには、目標としたこと、出来
なかつたこと、やり残したこと
ばかり。それでも、『夜と霧』の
ヴィクトール・フランクルに倣い、
人生には、イエスと言おう。

園蛸さんのうた。出逢いは、
億千万の胸騒ぎ。あるいは、ス
ローモーション。五行歌がとな
いだ縁が、新たな出逢いの歌
を生む。

じぶんのうた。誰にも看取
られることなく、路上で果てた
軍手袋。終わり良ければ全て
良しとでも言うように、最期
は両手を挙げて、潔くバンザ
イ。

果林子さんのうた。蜘蛛の
糸を操る、姿なき風の人形使
い。冬の寒空を舞台に、アンデ
ルセンの赤い靴を履いた枯れ
葉が、くるくると舞い狂う。

ひめぼたるエッセイOH-HOW!
第4回「車椅子で」

町民劇に参加して
執筆 水無月子

今から20年前、軽米町文化
協会創立50周年事業の一環で、
町民劇の公演が企画されまし
た。上演にあたり、脚本、監督を
任されたのは、プロの劇団に所
属していた経験もある若いOさ
んでした。天保の大飢饉後に起
こつた稗(ひえ)三合一揆を題材
にした町民劇「1月のほたる」は、
笑いあり涙ありの素晴らしい内
容で、軽米町文化協会の全団
体が様々な形で参加・協力を
行いました。当時はまだ40代だっ
た私も、所属する人形劇サーク
ルのメンバーと一緒に参加させ
てもらいました。

それから20年の月日が流れ、
昨年は軽米町文化協会創立
70周年に当たる年でした。そこ
で以前上演した『1月のほたる』
を再演しようという話を持ち
上がったのです。けれども、2年
前に人形劇の準備の時に階段
から落ちて神経を損傷し、手足
が不自由になつてしまつた私が
協力できるころはないと思つて
いました。しかし、今回も監督を
務めることになつたOさんから、
「今回の劇では100人をステー
ジに上げたい」「車椅子でも参

加してほしい」と言われ、そこ
まで言われたなら……と、参加
する気持ちになつたのです。

私の役は、一揆に参加した
農民の1人でしたが、当日は
顔に泥を塗つたようなメイク
をしてもらい、車椅子に乗つ
たまま松明をかざし、歌を歌
いました。劇には目標通り1
00人以上の町民と町外か
らの助っ人が参加し、アドリ
ブとパワー全開の熱演で盛り
上げ、感動を呼び、大成功の
うちに終わりました。

劇に参加するにあたっては、
人形劇のメンバーの1人が隣
についてくれて、舞台の出入り
の際に協力してくれました。
ほかに、Oさんを含め、劇に
参加した多くの人たちのお
世話になりながら、私は出演
できたと思つています。この劇
に参加したことで、新たな出
会ひもありました。また、久々
の懐かしい再会もありました。
その全ての体験に、全ての人
たちに、感謝したいと思つて
います。そしてできたのが、上記
のうたでした。

私の周りには、素晴らしい
仲間たちがいます。その人た
ちへの感謝の思いを込めて、こ
のうたを作りました。

